

卵

Bブロック 全作品と講評



www.columnland.net/

にて作者さん&読者さんの声実況中

ふとスキップがしたくなる

口笛がふきたくなる

買い忘れの卵を買って帰る

今夜はすきやきだ

町の卵屋さん

みなさんは、私達が毎日食べている卵がどのように大きき別に仕分けられているか知っているだろうか。そういう書き出しでこれを書いてる私自身、大手スーパーなどでの場合は知らない。ただ言えるのは簡易な器械を用いて大きき分けをし、手作業で汚れを取る町の卵屋さんが存在することだ。

昔私が住んでいたのは政令指定都市でありながら、時折脱走した鶏が小道を歩いているような町だった。そんな町に養鶏場は複数あり、一つだけ卵の直売をしている店がある。

トラックが通るような入口を通り、広い駐車場のようなスペースの右に養鶏場の人々の家、左手に直売場がある。卵を買いに行くときまず直売場を覗き、人が居なければ住居のほうのチャイムを鳴らす。大抵縁側で日向ぼっこをしているおばあさんが出てきてくれる。

おばあさんと鍵の掛かっている直売場に入り、仕分けをする器械と、その横にある仕分け済みの卵をぼんやりと眺めながら「M玉二十個ください。」と告げる。するとおばあさんは仕分けられたばかりの朝とれた卵一つ一つの汚れを拭き、丁寧にパックに詰めていく。壁には沢山の賞状がはってあり、品質のいい卵だとわかる。その分値段は高いが、おばあさん含め直売場の人々は変に高飛車な態度ではなく、淡々とした静かな空気だった。

全てを詰め終わったおばあさんにお金を払うと、たまに熟れた果物をくれた。それは「都会」と呼ばれる都市のささやかな「田舎」の温かさだったのだと今ならわかる。

引越してから数年、まだその直売場があるかはわからない。しかしまだ昔のように存在するのならば、たまに温かい空気に触れにいくなにもいいのかもしれない。

ある原っぱに巣をつくっている一羽のとりがいました。

とりはうまれてくる子どもたちのためにまいにちいっしょうけんめいとびまわって、かれ草をあつめて、せの高い草のうえに巣をつくりました。

とりはたまごをよっつ、うみました。

よっつのたまごはきれいなうすい青色をしていました。

とりはまいにちいっしょうけんめいたまごをあたたためたり、巣のまわりをとびまわったりして、子どもたちがからをわって出てくるのをたのしみしていました。

ある日、とりが巣にもどってくると、ひとつのたまごがうすい青色からまっしるにかわっていました。

とりはどうしてそうなったのかわかりませんが、まっしるなたまごは前のよりもすこし大きかったので巣がすこしせまくなりました。

うすい青色のたまごがひとつじめんにおちてわれているのに、とりは気づきませんでした。

ある日、とりが巣でたまごをあたためていると、まっしるなたまごからこつこつと音がしました。

とりはうれしくなって、たまごから出てくる子どもはおなかですいているだろうと考えて虫をつかまえにいきました。

とりが虫をたくさんつかまえて巣にもどってくると、一羽のひながいました。

ひなはびいびいと、とてもおながすいているというようになっています。

とりはとてもうれしくなって、つかまえてきた虫をぜんぶひなにあげました。

うすい青色のたまごがみっつじめんにおちてわれているのに、とりは気づきませんでした。

ひなはどんどん虫をもらって、どんどんおおきくなりました。

ひなはどんどん虫をもらって、どんどんおおきくなりました。

ひなはどんどん虫をもらって、とりよりもおおきくなりました。

ひなはどんどん虫をもらって、もっとおおきくなりました。

とりはひながじぶんよりもおおきくなったのはじめはびっくりしましたが、じぶんの子どもがどんどんおおきくなっていると思っただけうれしくなりました。

とりは前よりももっといっしょうけんめい虫をあつめて、ひなに食べさせました。

ひなは、とりよりもひとまわりおおきくて、色もまるでちがう別のとりになりました。

ひながじぶんの子どもではなかったことに、とりは気づきませんでした。

そして、ひなは巣立ちました。

来年、ひなは大人になって、知らないとりの巣にたまごをうむのです。

カッパの卵

あれはわたしが十歳のときでした。ある日学校が終わって家に帰っていたとき、道ばたで段ボールの中に緑色の卵を入れ、おじさんがその後ろにたっており、横に「カッパの卵 一個六百元」とかかれた看板が立っていました。わたしはそれをみて急いでうちにかえり、残り六百元だったお年玉をつかみまた家を出ました。卵を買って家に帰りとりあえず自分の布団にいれ、あたためました。それから十日程たつたとき、卵にひびが入り中からなんだかわからない生き物が出てきました。くちばしがついていたのでわたしはそれがカッパであると認識しました。わたしはわざとご飯を残しカッパに与え、一生懸命育てました。カッパは順調に成長し、だんだん体に毛が生えてきてピヨピヨと鳴き始めました。さらに月日が流れると、赤いとさかも生えてきました。そして私が一番恐れていたことが起こりました。カッパがコケッココーと言いつはカッパじゃない、にわとりだ。

わたしは小五にして初めて詐欺に遭いました。最近はいろいろな詐欺の種類が生まれています。わたしはこのとき詐欺にあつたおかげで慎重にものを買うようになり、それから詐欺に遭わなくなりました。このように学校の授業で詐欺に遭わないような心構えを教えるより、一度詐欺にあった方がいいかもしれません。そういう意味では、あのカッパの卵をうっていたおじさんは、わたしにとって詐欺について教えてくれた偉大な先生です。最近そう思えるようになりました。

ほゝのたまし

たましほゝの

あたためなきいけな

おほいほたまめ

だめになし

だかほゝの

ほゝのほゝのほゝの

ほゝのほゝのほゝのほゝの

ほゝのほゝのほゝのほゝの

ほゝのほゝのほゝのほゝの

ほゝのほゝのほゝのほゝの

ほゝのほゝのほゝの

ほゝのほゝのほゝのほゝの

物価の優等生？

私はこの春、大学に進学するにあたり東京に越してきた。東京に越してきてまず思ったことは、物価が高いことである。米や野菜などの食料品や洗剤などの日用品、さらには服など基本的にすべて物が高い。マクドナルドのセットですら東京は高く、毎日買い物に行っては驚いてばかりである。しかし卵はほかのものに比べて、東京でも地元でも他の物に比べてあまり値段は変わらないように思われる。

物価についてよく言われることの一つに「卵は物価の優等生」というものがある。半世紀の間日本人の平均年収は十倍以上になっているのにも関わらず、卵の値段はほとんど変わっていない。当然これには理由がある。もちろん当時と比べ大量生産にすることで値段を下げているのであるがこれには問題がある。

私の祖父がいうことには、卵は昔と比べおいしくなくなったという。事実、卵の栄養価は落ちていそうで卵の品質低下は目に見えて分かるという。

現在普通の卵というのは昔の卵に比べて、卵を産む鶏には各種の抗生物質などが投与され、当然卵にもはいつているだろう。飼いで飼われている鶏が生んだ卵と、何十万匹のプロイラーが一カ所に詰め込まれて、人工的な環境でひたすら卵製造器としての性能を引き出すことに傾注し、コストダウンに徹してきた卵では味が違って当然ではある。

現在の卵は形こそは同じでも、中身が劣化しているわけである。三十年前の半分にオクタン価下げたガソリンを売ったら詐欺といわれ問題になるでしょう。それと同じようなものである。

このように考えると「卵は物価の優等生」というのは本当に言えるかどうか怪しくなってきた。しかし、半世紀の間、ここまですで値段が変わらないものも珍しい。どうかパソコンなどの家電のように「スペック向上、でも値段は低下」みたいにたまごもなってくれないだろうか。いまでは卵も立派な工業製品みたいなものなのだから。

拝啓、殻の中の君へ

温暖で安全な殻の中はどうだい？

僕が自分の殻を破ったのはもうだいぶ前のことのような……ついこの間のことのような……。とにかく、あの心地よい浮遊感、もうおぼろげにしか思い出せない。でも、卵時代の僕は少しでも早く外の世界に行きたいと毎日々々焦っていたよ。幼いころは居心地が良いと思っていた殻の中も、気がついたら手狭で窮屈になってしまおうね。

外の世界で自由に空を飛ぶってどんな感じ？この羽で春風を切ってみたい！と、未だ見ぬ空や風への強い憧れは、今も忘れることが出来ない。

でもいざ外の世界に出てみると、思い描いていたそれとあまりにも違うものだからビクビクしたよ。

まず自分だ。あの窮屈な殻の中で見つめる自分自身は、酷く歪んだものであったと思う。変に自意識過剰になってしまったり、逆に卑屈になってしまったり。僕は外の世界に出て、初めて水面に写った自分の姿を見たとき愕然としたよ。そこに写っていたのは飛べない鳥のひな。僕は一生飛べない運命だったんだからね。

大空で風を切るという僕の夢は、あの日桜と共にハラハラと散ってしまった。

今、僕は愛する家族や仲間と共に幸せに暮らしている。やはり空には憧れるけれど、延々と続く見事なたんぼ畑の方が自分には似合っている、と思うようにしている。

閉ざされている殻の中はなんだか不愉快だったけれど、もう二度と戻れないのかと思うと、あれはあれでも貴重な体験だったと今だから言える。

卵には無限の可能性がある。自分の正体を知らない、自分が将来何者になるかが全く分からない、そんな卵時代だからこそ、自由に描ける夢がある。そしてどうかその夢が叶わなくとも、いつまでも大切に覚えておいてほしいと思う。

だいそれた夢なんて、大人になってしまったらそうそう見られる物じゃないのだからね。

- 庭師 映画監督 数学者 研究者 証券アナリスト 工業デザイナー
- ナー 看護師 獣医 ブリッダー 宇宙飛行士 パイロット 作家
- 家 演奏家 編集者 漫画家 カメラマン 料理人 和菓子職人
- 栄養士 心理学者 演出家 舞踏家 溶接工 潜水士 航海士 武道家
- 保険外交官 企業家 税理士 電車運転士 イベントプランナー
- クラブ DJ サークラス団員 ファッションデザイナー
- バスガイド 塾講師 自衛隊員 芸能マネージャー 俳優 声優
- ホステス 保育士 教師 専業主婦 コピーライター 葬儀師 シヤ
- 大工 不動産鑑定士 美容師
- 環境計量師 ゴル ファー
- 海女 果樹園経 営者
- エステイシヤ ン 政治家
- 治家 外交官 弁護士
- 建築家 裁判官 プロ
- ゲーマー ソフト ウェア開発者
- アナウンサー 酪農 家 陶芸家
- 清酒製造工 警察官 探偵 救急救命 士 ホームヘルパー
- 寿司職人 刺青師 秘書 横綱 審判員 スポーツインストラクター
- 鍛冶職人 ドライバー 牧師 政治評論家 エンジニア
- 棋士 首相 美術鑑定士 古着屋 骨董屋 冒険家 登山家
- ネイチャーガイド 自動車整備士 画家 マジシャン ダンサー
- チアリーダー 編集者 イラストレーター 楽器職人 指揮者
- 消防士 漁師 薬剤師 会社員 塗装工 プログラマー

君

キミはなんの卵？

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	無限の可能性	9 pt	4 位	1 sp
		<p>かわいい表紙で初発進！ 割れ目に哲学フレーズを組み込んだのが、含蓄深くてワザあります。 特別賞：がんばったで賞</p>		
A02	コロンブスの卵	1 pt	8 位	1 sp
		<p>なぜ卵？ 解けない謎にリクツを付けてみる。 卵は始まりの象徴なのかな、というリクツに、さらに「破壊こそ創造」というリクツを上乗せしたところがユニークでした。二段重ねのワザなんて、なかなかできない豪腕です。 特別賞：息切れで賞（前半おもしろいが後半つかれてる感じ）</p>		
A03	卵のなかの宇宙	9 pt	4 位	0 sp
		<p>ちっちゃな卵から連想を転がして宇宙へ。 友だちトークを聞いているような親近感で浸っていると、いきなり不意打ちで「毎月、卵を産んでる」。そこが輝いてました。 イチオシフレーズ：「私は宇宙」×2</p>		
A04	記念日	4 pt	6 位	0 sp
		<p>思い出ほのぼのお洋服。 語り過ぎず、「記念日」でさくっとまとめたところが、べたつかなくてGood。キーワードの効かせ方がうまいです。 イチオシフレーズ：「おにゅうのお洋服」</p>		
A05	青い部屋	14 pt	3 位	0 sp
		<p>クシャクシャパシャン、そんなストレス解消法。 3パターンつくったサーヴィス精神が、だんだんヒートアップしてゆく読者の気持ちに、うまくシンクロして、こちらも盛り上がれます。ラストシーンの止め方もあざやかでした。 おめでとうブロンズ・メダル！</p>		
A06	(汎用鳥形人造生物)	3 pt	7 位	3 sp
		<p>遺伝子のコントロールの1事例。欠陥遺伝子に生きる権利はあるのか？ 現代の生命倫理につながりそうな深い問いをSF仕立てでじょうずにご提供いただきました。 SFって、どうしても設定説明でぎゅうぎゅうになるのですが、ちゃんと問いまで行けてたところ、良かったです。 特別賞：オタク賞（僕が好きな小説に雰囲気似ていてとてもいい） 頑張ったで賞（長い！） 読みづらいつ賞（漢字多い）</p>		
		24 pt	2 位	7 sp

A07	ある満月の夜	<p>わはははは。ラストのおふとんシーンのお馬鹿さにやられました。</p> <p>大げさに展開するから、このラストが効くのですよね。ナイス！</p> <p>首位こそハナ差で逃したけれど、みなさまのツポに大ヒットで驚異の最多特別賞&イチオシフリーズ大賞ゲットです、おめでとう!!</p> <p>特別賞：完熟賞（ドキッ☆とした）神秘賞（卵と女性がリンクして神秘的だった）官能賞（すさまじい！の一言に尽きる）中二賞（せのび感がいい。初々しくていい）頑張ったで賞（よくこのような内容を書けたな!!）カン違いさせるで賞（ある1人が強く勧めたから）アダルティー賞（この内容を書いて提出した勇氣に天晴！）</p> <p>イチオシフリーズ：「まだ熟していないきみが好きだよ」×8 「恥ずかしさのあまり布団から……」×2</p>
A08	みんな忘れてる	<p>25 pt 1位 3 sp</p> <p>そんな悲しいたまごっち。あちこちで思い出トークに花が咲きましたね。</p> <p>親近感を醸し出しつつ、さわやかエンドで初セッションの勝ち名乗り、おめでとう!!!</p> <p>特別賞：そんなのあったで賞（心にしみたから）たまごっち賞（昔なつかしいから）よくあるで賞</p> <p>イチオシフリーズ：「例のあれ」「みんな忘れてる」</p>

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじよコメント		
B01	(すきやき)	15 pt	4位	1 sp
		<p>ささやかな、けれども、いとおしいしあわせ。少年のはずむ姿が見えてくるような。すきやきのひとことに、思いがぎゅっと詰まって、まさに省略の芸。</p> <p>この1作にて作者さんのハンドルネームは「すきやき」と決定したとかしないとか。</p> <p>特別賞：奥深いで賞（スキップを卵を買ったあととはできないなどと考えられるのが奥深い）</p> <p>イチオシフリーズ：「今夜はすきやきだ」×4</p>		
B02	町の卵屋さん	0 pt	8位	0 sp
		<p>思い出は霧のかなた。敢えて町の名前などを特定せずに、その茫漠感を演出したところが、良かったです。ソフトフォーカス、だから、都会にして田舎という場所の「温かさ」が誰にも経験あるものとして、しっかり伝わってきます。</p>		
B03	(ある原っぱに)	17 pt	3位	1 sp
		<p>かわいい絵本テイスト。なのに、悲劇。そのギャップがすてきです。残酷さはこうして真綿にくるまれてやってくるもの、かも。</p> <p>さいごから3行目「ひながじぶんの子どもではなかったことに、とりは気づきませんでした」だけ解説っぽくて、むしろ要らないかなと思ったのですが、どうでしょう。</p> <p>ブラックテイストはBブロック好みでもあったでしょうか。ブロンズ・メダル、ゲットです、おめでとう！</p> <p>特別賞：ギャップ賞（ひらがな多めな絵本っぽいけど内</p>		

		容暗めでおもしろい)
B04	カップの卵	<p>20 pt 2位 2 sp</p> <p>まさかの実話？でもなさそうですが、コミカルに展開して、ちょっと学校という場をもからかって、と王道のとぼけ路線、ジャストミートの銀メダル、おめでとう!! 特別賞：ベスト・カップで賞（オチはわかるのに、笑わせる文章力はすごい）カップ賞（作者の考え方がすばらしい） イチオシフレーズ：「ついに私は自分を欺く限界に達しました」「こいつはカップじゃない、にわとりだ。」×2 「私は小5にして初めて詐欺にあいました」</p>
B05	ぼくのたまご	<p>8 pt 5位 0 sp</p> <p>メッセージ性のあるポエム。 ひらがなのやわらかさで、そのメッセージが強すぎない、さじ加減が成功してます。 「どりょくというなのぬくもりで」の1行だけ、語りすぎの憾みがある気がしましたが、いかがでしょう。</p>
B06	物価の優等生？	<p>3 pt 7位 2 sp</p> <p>物価の優等生ってホント？よく知られているフレーズのウラを疑うづくりが、とても分かりやすい。データ部分がかもっとしっかりできると、よりパワフルになると思います。 特別賞：まじめで賞（優等生だから）コラムっぽいで賞 イチオシフレーズ：「いまでは卵も立派な工業製品みたいなものだから」</p>
B07	拝啓、殻の中の君へ	<p>4 pt 6位 1 sp</p> <p>アヒルかな？あとに続くヒナたちへの、ちょっぴり先輩の立場からのアドヴァイス。その遠すぎない距離感が、今の自分たちへの応援メッセージとして、とてもすがすがしく響きました。 特別賞：つけてるで賞？（おめー大学生か？）</p>
B08	キミはなんの卵？	<p>22 pt 1位 7 sp</p> <p>見た目勝負。 一瞬で読めて、でも背景に「海女」なんてさりげなくミョウなものも入ってて、短くも長くも楽しめる逸品でした。 いきなりの三冠王。首位&最多特別賞&イチオシフレーズ大賞の快挙です。おめでとう!!! 特別賞：奇抜賞（デザイン）構成賞（まんま構成がよい）ベストデザイン賞（分かりやすいから）アイデア賞（レイアウトがこっていてよかった。しかし、もうすこしたまごにトゥルトゥルの立体感がほしかった）ヴィジュアル賞（キミを君とかけている）アイデア賞（よく思い付きましたね）努力したで賞（卵の形をつくったところがすごくがんばってる） イチオシフレーズ：「シャーマン」×2 「キミはなんの卵」「編集者×2」（←よく見つけた!）「君」×2</p>